中央家畜衛生通信

第111号 令和８年11月発行　岩手県中央家畜保健衛生所・岩手県中央家畜衛生協議会

目　　次

- 高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）対策強化のポイント　……１
- 冬季に備える呼吸器病対策　……３
- 県北地域におけるトリメタニューモウイルスの浸潤状況について　……４

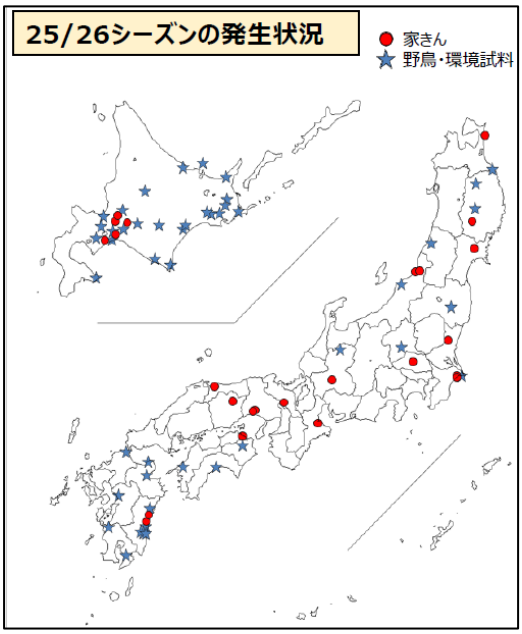
高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）対策強化のポイント

中小家畜課

昨シーズンにおけるHPAIの発生状況

○ 25/26シーズンは、地域に偏りなく発生が見られ、16道府県24事例発生し、約576万羽が殺処分の対象となりました。

○ 家きんの発生は10月から翌年４月まで続き、長期間におよびました。野鳥の感染が全国の広い範囲で起こり、農場及び家きん舎の周辺環境へのウイルス侵入の主な要因となりました。



過去シーズンとの比較

シーズン		24/25	25/26
野鳥	初発	９月30日	**10月15日**
	最終確認	６月17日	**5月22日※**
家きん	初発	10月17日	**10月22日**
	最終確認	２月１日	**4月22日※**

※6月30日時点
（注）野鳥の日付は回収日

重点対策期間

渡り鳥飛来前の９月中から準備が必要です

10月～翌年５月：特に警戒を強化

11月～翌年１月：重点対策を徹底

農場におけるHPAI発生予防対策



１　**異状の早期発見・早期通報**

毎日の健康観察を入念に行い、**異状確認時は当所へ速やかに届出**

（通報の遅れは、手当金の減額等に繋がります）

２　**農場へのウイルス侵入防止対策の強化**

飼養衛生管理の基本的な管理項目を**毎月点検し、不備があれば改善**

◆**人、物、車両の入出時対策**

◆**野生動物の侵入防止、誘引防止**

３　**野鳥・野生動物対策**

- 農場周辺のため池は、水抜きや忌避テープ等で**野鳥の飛来を防止**
- 農場周辺にカラス等の野鳥誘引施設や生息に適した環境があれば解消
- 野鳥等への安易な餌やり等の中止

過去シーズンの発生傾向を踏まえた取組を実施しましょう！

昨シーズンの HPAI 発生事例の傾向
- ○ 過去に発生した農場での再発
- ○ 大規模農場での発生が多数

1 塵埃対策の実施

20 万羽以上大規模農場

ウイルスに汚染された粉塵、羽毛等（塵埃）によるウイルス伝播リスク低減のため、以下のような取組を実施（令和８年 10 月１日施行）

- フィルター・不織布の設置
- 細霧装置の設置
- 入気口の一部閉鎖

2 再発・密集地域等における発生リスク低減に向けた取組

大臣指定地域 ＝ 発生リスクが高い地域

地域内の農場は地域内での発生に備えた準備や野鳥誘引防止対策等の取組を実施
- ○ 家きん舎周辺を消毒するのに十分な量の消毒薬を各農場が備蓄
- ○ 地域内で発生した際に各農場が塵埃対策を実施できるよう準備
- ○ 農場周辺の野鳥等の生息状況の把握
- ○ 把握した情報に基づく周辺環境におけるウイルス低減対策の検討および実施

地域内での発生に備え、地域一体となった対策を！

3 分割管理導入の検討

20 万羽以上大規模農場

- ○ 分割管理の導入に向けて具体的な検討を実施
（令和７年 10 月１日施行）
- ○ 分割管理を導入する場合は、当所にご連絡ください

4 誘導換羽中も警戒を徹底

採卵鶏農場

- ○ 誘導換羽や強制換羽中は毎日の健康観察を十分に行い、少しでも異常を感じた際は、当所へ連絡を
- ○ 農場が制限区域内に入った場合は制限区域が解除されるまで、実施時期の考慮を

自身の農場リスクを分析し、本病の発生を予防しましょう！

冬季に備える呼吸器病対策
～　換気とワクチン　～

大家畜課

朝晩の気温が下がり、呼吸器病が流行しやすい季節になってきました。呼吸器病は発育遅延や治療費増加につながり、農場の生産性を大きく低下させます。

今のうちに換気とワクチンを見直し、呼吸器病対策を検討しましょう。

1　換気

(1)「呼吸器病対策には換気！」…これはよく言われますが、そのメカニズムを再確認しましょう。**換気不良**は、**①糞尿由来のアンモニアやホコリが気道を傷つけ、②病原体に好都合な湿潤な環境**をつくり、呼吸器病の発生リスクを高めます。このほか、**ホコリに病原体が付着し、感染源となる可能性**もあります。

(2) 換気の効果…2026 年 4 月、牛舎の窓(巻上カーテン)を閉めていた農場の二酸化炭素(CO_2)は、換気不足の状況(1,265 ppm)でした。

窓を開けたところ、半分近く(681 ppm)まで低下し(図 1)、**定期的に窓を開け放し空気を入れ替える**ことで環境が大きく改善されました。

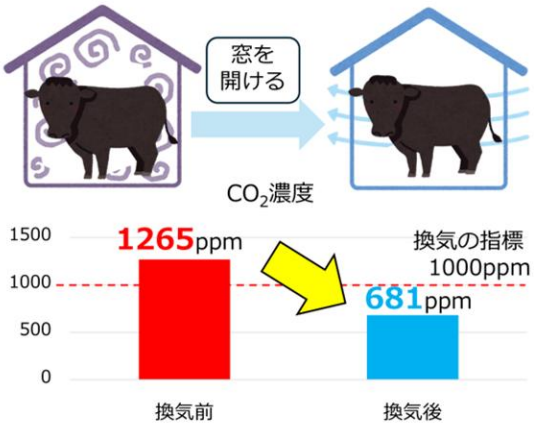


図 1　換気の効果

(3) メリハリのある換気…気温の低い冬季は換気を躊躇しがちですが、窓を常時少し開けて隙間風を入れる方法ではなく、**天気が良く、比較的暖かい時間帯に窓を大きく開け、牛舎内の空気を入れ替える**方法をおすすめします。

ただし、冷たい風が直接牛に当たり続けないよう注意が必要です。特に**子牛は寒さの影響を受けやすいため、風を避けて休める場所を設ける**等、防寒にも配慮した換気を心がけましょう。

2　ワクチン接種

呼吸器病のためのワクチンは数多くありますが、ここでは**点鼻タイプのワクチン**を紹介します。群移動、季節の変わり目等、**呼吸器病が流行しやすい時期**を予測できる場合、**その直前に接種**することでまん延防止効果を期待できます(図 2)。

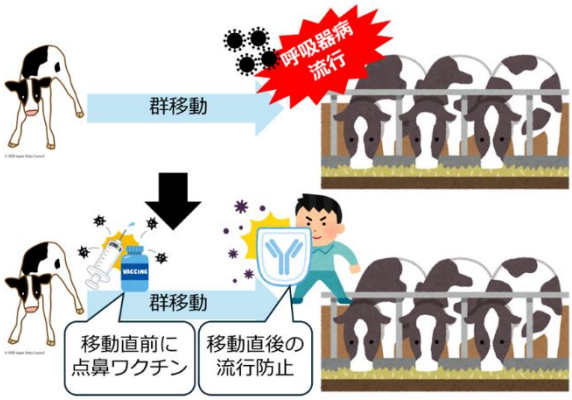


図 2　ワクチンによる対策の例

実際の飼養状況に合わせたワクチンプログラム(接種計画)は、掛かりつけ獣医師にご相談ください。

岩手県北地域におけるトリメタニューモウイルスの浸潤状況について

病性鑑定課

トリメタニューモウイルス（aMPV）は、頭部腫脹症候群（SHS）を引き起こす要因の一つとされています。本ウイルスは、日本では 1990 年に兵庫県で初めて報告されて以降、全国的な浸潤が確認されましたが、近年、その報告は限られており、本県おける浸潤状況は不明です。

令和７年５月～7 月、県北地域の肉用鶏２農場において SHS が発生し、aMPV の関与が疑われました。そこで、県北地域における aMPV の浸潤状況を調査したので、その成績及び本ウイルスと SHS の対策について報告します。

1　SHS と aMPV の概要

SHS は頭部及び眼瞼周囲の腫脹を特徴とし、死亡、産卵低下等がみられるため、経済的損失を引き起こします。主に肉用鶏のひなや種鶏に発生しますが、まれに採卵鶏にも発生します。上部気道を傷害するウイルスの感染後に大腸菌等の細菌が二次感染し、頭部が腫脹します。



眼瞼周囲の腫脹

aMPV は呼吸器粘膜を傷害するため、SHS の発症要因の一つとされ、主に接触伝播によって急速に拡がります。

2　県北地域における aMPV 浸潤状況

SHS 発生農場から半径 25km 以内に位置する aMPV ワクチン未接種の肉用鶏６農場を対象として、令和６年 10 月～令和８年３月に採取した、各農場６羽の aMPV 抗体検査を行ないました。検査の結果、令和７年７月以降（SHS 発生後）に採取した３農場から抗体が確認されました。これ以前に採取した残りの３農場から抗体は確認されませんでした。抗体が確認された３農場は同一の主要道路に近接していました。うち２農場は SHS 発生農場と同系列でした。

これらのことから、SHS 発生前後に aMPV が県北地域に浸潤したと考えられました。本ウイルスの農場への侵入経路として、人・資材・車両等による人為的な伝播の可能性もうかがわれましたが、本調査のみでは明らかとなりませんでした。

3　aMPV ・SHS 対策

aMPV の発症予防・症状軽減等を目的とした各種ワクチンが市販されています。

本ウイルスの農場への侵入経路として、人為的又は野鳥による伝播が報告されています。また、SHS は、高濃度のアンモニア、粉塵、不適切な換気や衛生状態等により重篤化します。これらのことから、SHS の対策として、aMPV ワクチン以外に、バイオセキュリティの強化や適切な飼養衛生管理が重要です。

＜ お問合せ先 ＞

〇岩手県中央家畜保健衛生所
電話：019-688-4111　／　FAX：019-688-4012
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.pref.iwate.jp/nougyou/desaki/chuuou/index.html
または「岩手県中央家畜保健衛生所」で検索してください

〇沿岸広域振興局農林部宮古農林振興センター
電話：0193-64-2214　／　FAX：0193-64-5631

〇岩手県中央家畜衛生協議会
電話・FAX：019-688-4015